TURNING POINT に差しかかった デザイン・建築・環境 について語り合おう

明治以来 150 年、戦後の高度成長期を経て我が国はいま少子高齢化、ネット社会化、グローバル化と格差、地域の環境保全などの先進国課題への対応を求められており、社会構造の枠組みに変革が迫られています。

これまでの日本社会は、産業革命以降の西欧文明を咀嚼しつつも、技術的知識主義、大企業中心主義に傾き発展を遂げてきました。結果として専門家と市民の信頼関係に基づく社会の形成を難しくすることになりました。それ故にこそ、発達障害的であったり定性的な感性を持つ人材や、そこから生まれるはずのシステムが軽視されてきた、とも言えそうです。むしろ、この様な個人軸を持つ人材をシステムに活かすことこそ、これからの日本に必要ではないのか、という視点で話しを進めます。それぞれの立場を越えて話題を広げたいと思いますので、大勢のご参加をお待ちしています。

□登壇者

神田　順（日本大学特任教授：建築基本法選定準備会会長）

木村戰太郎（NPO 日本デザイン協会理事：プロダクトデザイナー）

連　健夫（(公社) 日本建築家協会理事：建築家）

山田晃三（(公社) 日本インダストリアルデザイナー協会理事：GK デザイン機構代表取締役社長）

司会 大倉冨美雄（NPO 日本デザイン協会理事長：建築家 / 工業デザイナー）

神田　順
かんだ じゅん

木村戰太郎
きむら せんたろう

連　健夫
むらじ たけお

山田晃三
やまだ こうぞう

大倉冨美雄
おおくら ふみお

日　時：2015 年 11 月 9 日 (月)18:00〜20:00 その後 40 分ほど懇親会
場　所：(公財) 日本デザイン振興会 デザインハブ
六本木ミッドタウン・タワー 5F Tel.03-6743-3772
参加費：1 人 1500 円（懇親会費を含む）
主　催：NPO 日本デザイン協会（JDA）
(公社) 日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）
後　援：(公社) 日本建築家協会（JIA）
（公社）日本インテリアデザイナー協会 (JID)
協　力：JIA 関東甲信越支部デザイン部会

デザインハブ 略図
港区赤坂 9-7-1 六本木ミッドタウン・タワー 5F

■申し込みは Fax.(03-3444-1573) 又は Mail(sentarokimura@gmail.com) で、氏名 職業 所属 連絡先を明記して下さい。
申込みに対して受け付け確認は致しませんが、満席になった場合は、それ以降の申込者には連絡致します。

■神田　順（かんだ　じゅん）：コメント
1998 年の建築基準法改正を機に、建築基本法制定提案のかたちで、建築制度の基本について問題提起している。複雑な法規制と自由市場経済のもとで、生き方まで国が規制する状況が現れている。建築のデザインに関わる専門家が、個々の多様性と自然への適応性を判断する状況をつくらなければいけない。貨幣価値のみではない建築の価値を、建築主と専門家が共有する事から始まる。そのためには、グローバルな市場経済の現実と限界を理解することが必要である。
■ 進行議題案：1) 職人の技が評価される社会へ　2) 建築物は単なる私有財産でなく社会資産だ　3) 持続可能社会をどう達成するか
■ 略歴 :1970 年東京大学建築学科卒、1979 年エディンバラ大学 PhD、1972 年竹中工務店を経て 1980 年東京大学助教授、1996 年教授、2012 年名誉教授、2003 年建築基本法選定準備会設立、現、日本大学理工学部特任教授

■木村戦太郎（きむら　せんたろう）コメント
本来 1/10 馬力の人間が今や 1 万倍のパワーを駆使する存在となっている。20 世紀までの政治・経済・国家の概念が崩壊しつつあり貧富の差も拡大しつつある。1908 年の T 型フォードで始まった量産システムは、極言すれば物作り文化の破壊行為であった。かつて志向された " 地産地消 " やグローカルな生き方も未だ途上である。
■進行議題案：1) データ処理に頼らない体感的取組の重視、2) 職業も研究も作業もそれぞれ専門化・分業化され、人々が屋内で作業をし始めて環境破壊が始まったと V. パパネックは言う。こま切れ担当ではないトータルな理解を。
■略歴：1963 年東京芸術大学金工科卒、通産省産工試を経てデザイン事務所設立、ヤマハ、オカムラ、イトーキ他の家具設計、1989 年から筑波技短、文化女子大学教授、1999 年 JID 理事長、2000 年日本デザイン学会年間作品賞受賞など

■ 連健夫（むらじ　たけお）コメント
良質なデザインを創りだす文化、制度、仕組が日本は弱い。デザインの質を判断できずブランドにたよる文化がある。デザイナーもバックグランドづくりに精を出してしまう。英国には CABE（建築まちづくり機構）という様々な専門家が登録している第三者機関がある。そこで建築許可審査をしており、良質や美しいという定性的な判断が加わる制度・仕組がある。日本は確認申請、広さ・高さといった数量的判断であり、定性的な判断は入らない。何かを変えなければならない！
■議事進行案：1) 良質なデザイン、美しいデザインとは何か？ 2) 海外と日本のデザイン評価の文化、教育、制度の違い、3) 日本において何を変えれば良いのか？
■ 略歴：1980 年東京都立大学大学院修了、建設会社 10 年勤務の後渡英、AA スクール留学、AA 大学院優等学位取得の後、同校助手、東ﾛﾝﾄﾞﾝ大学講師、1996 年帰国、建築設計事務所設立、設計の傍ら、港区まち作りにコンサルタントとして関わる。

■山田晃三（やまだ　こうぞう）コメント
日本の経済立国としての体力は、戦後の産業デザインの成果である。いっぽうでデザインには「美をもって機能を制御する」という譲ることのできない基本的な姿勢があるはずだ。技術の進歩がモノや社会システムを高度化・複雑化すればするほど見えなくなるものを顕在化し、複雑な事象をよりシンプルにすることが、デザインの役割ではないか。
いまこそ「より自然であること」を指向し、変わることのない人の心や存在の意味に着目すべきときと考えている。
■進行議題案：1）美をもって機能を制御する　2）デザインの総合性　3）自然とはなにか
■略歴：1979 年生愛知県立芸術大学卒、GK インダストリアルデザイン研究所入所後、92 年 GK とマツダとの合弁会社 GK デザイン総研広島に移籍、代表取締役社長を経て 12 年より現職。日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）理事。九州大学、広島市立大学非常勤講師。日本グッドデザイン賞（G マーク）審査委員。道具学会会員。

■大倉冨美雄（おおくら　ふみお）コメント
ミラノで 10 年の建築事務所勤めと自営を通して、建築とプロダクトに境界意識が無く、これが当然だと知った。 つまり職能が個人の感性能力に基づくので、そこから現代アートの価値までに行き着く。そこで「人間の外側から、しかも生産型企業システムに従って規制する国情」に大きな疑問を抱いた。 神田先生とは「ウイリアム・モリスと現代」のトーク以来、「イタリア問題」なども通じて建築基準法の背景を意識して議論してきた。文化を経済力にする本質を理解する国への離脱のために戦う。
■進行議題案：1) 日本人に見る譲り合いによる自己隠蔽がもたらすもの　2) スティーブ・ジョブスは日本人でも可能か
3) 現代アートの限界と未来　4) 国交、経産、文科各省から文化型経済分野（デザイン）を分離統合、新庁に
5) 利潤、効率、生産性ばかり優先の経済から、文化的価値、心のゆとりを愛でる社会へ。
■略歴：1963 年東京芸大工芸科卒、大手電気会社を経て渡米、デザイン事務所勤務後渡伊、ミラノ：カルロ・バルトリ建築事務所勤務、1980 年帰国後デザイン事務所設立、1999 年 JIDA 理事長、2000 年静岡文化芸術大学教授